

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和 7 年 4 月 15 日				
ぐんぐん九条						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		利用人数の超過が無いようにしており、活動スペースは十分に確保されている。学習場所・自由遊びの場所・おやつなどのゆとりをもって設定されている。定員を超えないように、調整されている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8		配置数は適切である。曜日により職員人数が異なるため、手厚い日もありゆったりしている。急なトラブル等の時は、ヘルプ体制も整っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		コンセントや、家具の角などの保護をし、安全に努めている。環境は整備されて快適である。視覚支援を取り入れ分かりやすく設定されている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		清掃と整理整頓を、職員全体で心掛けている。基本的な感染予防策を行っている。活動に合わせて机の配置を行い、リスク予防をしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		個別学習の部屋を活用している。必要に応じて、相談室を活用している。学習に集中できるように衝立のある机が設置されている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		毎日朝礼で共有している。計画し実行され、評価を行い対策を会議して目標達成と、改善を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		保護者の方の意向をすぐに全体で共有し、会議にて把握し対策を考えて実行し、業務改善に繋げている。評価表を配布している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		朝礼と、放デイ会議を設けて職員の意見や提案を業務改善に活かしている。チーム内での話し合いを通じて、支援方法の改善と業務改善が出来ている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	現在は行っていない。	今後、取り入れることについて検討します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8		法人内で研修を行い共有している。資格取得のための研修や、事業所内で支援方法改善のための研修などを行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		保護者の方の意見を重要視し、アセスメントに基づいて作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		こども一人ひとりに対して事業所で何がしたいか、何が出来ようになりたいか伺い、課題を客観的に分析してアセスメントに基づいて適切に計画作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		計画案を作成後、案とモニタリング記録を基に話し合う事業所内担当者会議を設け、職員全体の意見を交換し本案に反映している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		計画に基づいた支援が出来るように、支援計画が共有されている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		フォーマル・インフォーマルともに、活用することでこども一人ひとりの行動状況を確認している。ニーズに沿った生活が送れるように確認している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		個別支援計画・専門支援計画で適切に項目に準じて設定し、支援している。必要な項目に沿って支援内容を設定している。本人支援は5領域すべてに対応した支援内容を設定し、支援に取り組んでいる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		チームで話し合い提案している。リスク管理・支援内容等を考慮しながらチームですすめている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		支援目的に適していることと、児童が楽しく喜んで参加できるものであるように、工夫している。計画に準じて、設定している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		個別学習時と、集団学習を組み合わせ支援計画を立案している。本人・家族のニーズに応じて、適切に作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		毎朝ミーティングを行い、利用する児童に合わせた支援内容や、支援員の役割分担について検討し、確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		毎日ミーティングの中で気づきや改善点を共有し対策している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		利用児童個人の記録ノートを作成し、職員全体で共有している。専門支援の記録を作成し、共有し次回支援に活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		6カ月に一度以上のモニタリングを行い、保護者の方に来所して頂いてお話を伺っている。本人の意思を取り入れて適切に見直ししている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		自立支援と日常生活の充実のための活動は普段の支援の中で、創作活動、地域交流の機会の提供を含めた余暇の提供は、土祝や長期休暇を組み合わせ支援している。1カ月を通して計画的に組み合わせ、支援している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		自分で判断し、自分で決められる機会をたくさん設けるために、選択肢の提示や意思表示についての工夫をして支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児発管が主に出席している。場合により、支援員や専門的支援員が参画する事で充実した会議を行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		1カ月に1回以上、学校担任、学童の指導員や相談支援員と連絡を取り連携している。必要な時は訪問し、様子の見学や助言を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		学校の配布資料などを共有して頂いたり、連絡を密にして適切に行っている。いきいき活動の指導員に連絡を取り協力いただいている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		就学前の様子やニーズについて伺い、共有して頂くことで支援内容を豊かにできるよう活用している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		現在卒業した児童はいないので実績はないが、今後移行時には必要事項を提供する。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		児童発達支援センターを利用している児童があれば、支援内容の共有や連携を行う。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8		地域活動として地域の公園へ外出支援や、ごみ拾い、地域のお店へ買い物支援を行い地域のこどもと交流の場を設定している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		区のこども部会へ参加している。困りごとの共有や解決策を共有し、持ち帰って職員へ伝達している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		利用の都度、様子について共有し、見つかった課題や対策について共通理解が出来るように努めている。	
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		8	個々では行っているが、ご家族等への研修等の参加型支援は現在は行っていない。	今後、利用者様の声を聞き必要に応じて検討する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時には丁寧に説明を行っており、更新や変更の際も丁寧に伝達している。問い合わせのあった際は適切に対応している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		必ず本人とご家族の意向をそれぞれに確認している。意思表示が難しい児童は、普段の様子から捉えている。必ず最善の利益を踏まえて計画している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		内容が伝わりやすいように工夫し、ご説明している。自筆でサインをいただき、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		いつでも相談に応じられるようにしている。保護者の方の望む手段で。電話や面談などの機会を設けて対応している。	

	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		8	現在は行っていない。	今後、利用者様の声を聞き必要に応じて検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		苦情があった場合は即対応しているが、場合により会議を設け、全体の意見を統一した上で対応している。記録を残し、今後の再発防止に努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		SNSを活用して共有している。行事の前の週や前日には、チラシを配布している。活動の概要が分かるように工夫している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		十分留意できるように、職員全体に周知している。個人情報の書かれた書類等はカギ付ロッカーにしまうようにしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		視覚支援の活用、フリガナを付ける、読み上げるなど配慮をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		招待は行っていないが、買い物行事やボランティア行事を通して地域の商店街や神社などへ出向き、交流している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		年間研修計画を作成し、基づいて研修や訓練を行っている。年に2回以上の避難訓練を実施し、様子について保護者へ共有している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		BCPを適切に作成している。基づいて研修や訓練を実施して、反省する事で今後に活用している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		服薬、アレルギー状況や、持病・てんかんの発作のあるなしについて情報を伺い、適切に共有し気を付けるように周知している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		医師の指示所がある場合はそれに従い、ない場合は保護者からの報告をしっかりと確認し対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画を作成し活用している。年に一度振り返り、反省点などを次年度の計画に活用している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		安全計画の内容について保護者に周知し、何かあった時は計画に基づいて行動していることをお知らせしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットの案件が発生した際は職員への共有後、記録を残し今後の改善に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止委員会で適切に話し合い、職員へ共有している。虐待について研修を行い防止策に努めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		身体拘束は基本的には行わないことを念頭に置きつつも、必要な際は同意書を交わし同意を得たうえで適切に行っている。	